

「クマムシの研究 (3)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

北軽井沢のコンクリートに着いていた、コケの中の小生物・・・クマムシにも見えるし、そうでないようにも見える。何匹も見つけたが、まずはそのうちの1匹を追ってみた。もちろん、対物レンズの下で、スライドを動かして「追う」のだが・・・。

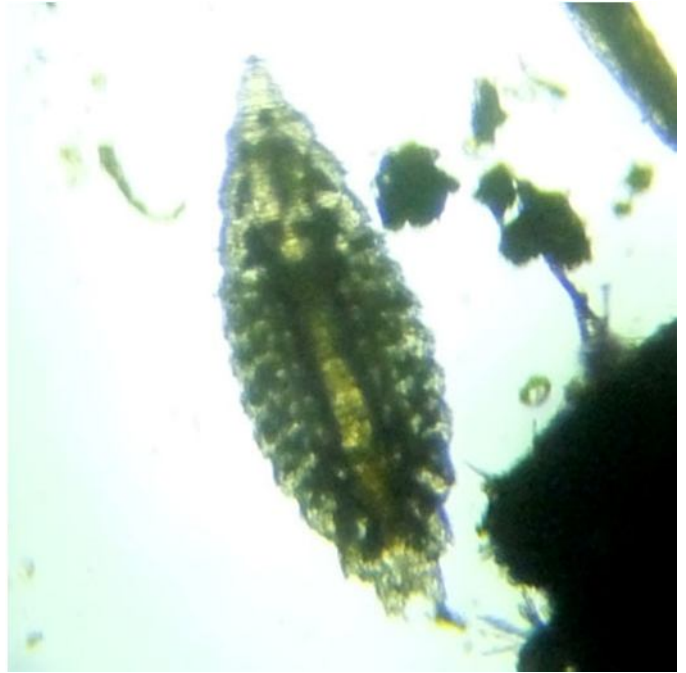
カバーガラスは使っていないので、水滴の中を比較的自由に動き回れるはずだ。しかし、見つけた生物(動物)の動きは緩慢だった。



最初は背中を見せていたが、横を向いたようだ。これでは「クマ」というよりも、お座りをした「ブタ」という感じに見える。



かと思うと、いきなり体を伸ばして、エビのように曲がって見えることもある。



こちらはどうか？大きさが1mm以上もあり、体節も多く、クマムシではなさそうだ。映画スタートレックの「ミスター・スポックを探せ！」で、ボタニー・ベイ号で飼育されていた、奇怪な虫に似ている。



30分近く顕微鏡を覗いているうちに、やっとそれらしき候補が見つかった。静止画ではよくわからないが、実際に動いている様子を見ると、片側に足が4本、両側で8本あるのがわかる。写真は、水滴の中の個体を写したものだが、「泳ぐ」という行動は見られず、コケの上をひたすら「ノシノシ歩いて」いた。もともとコケの中にいた虫なわけだし、池や川のプランクトンとは明らかに動きがちがう。これは、クマムシの一種と同定して問題なさそうである。次は、東京で普通に見られる「ギンゴケ」の中から探してみたい。